

第 12 回 球磨川下流域環境デザイン検討委員会
萩原堤防のデザインについて

日時：令和 3 年 11 月 18 日（木）10：00～12：00

場所：八代河川国道事務所 1 階会議室

■議事次第

1. 開会
2. 事務局からの説明
 - (1) 第 11 回球磨川下流域環境デザイン検討委員会 議事要旨
3. 議事
 - (1) 萩原堤防のデザインについて
 - 1) 石はねの保全方針
 - 2) 萩原堤の拠点整備について
4. その他報告事項
5. 閉会

■議事要旨

①第 11 回議事要旨について

事) 第 11 回委員会の要点（低水護岸の材料、積み方、施工法、はね・萩原敷石に対する意見、等）について説明を行った。

委) 特に質問なし

②萩原堤防のデザインについて

A) 石はねの保全方針

事) 石はねの保全方針として、埋設保全を基本とするが、石はねがあった当時の面影と憩いの場としての機能は、新たな球磨川の高水敷に復元し、後世にその歴史的土木施設の価値を正確に伝承することを考えている。

委) 丁寧に考えられており、基本的な考え方については共感する。石はねを残すことで萩原堤の履歴を感じることが出来る。歴史を体感できる点に加えて、萩原堤が強くなっていく様子が感じられる点においても、履歴を可視化することは重要である。このことを踏まえ、はねが 7 つあったことが重要であるため、現存が確認されていない磯ばね、天神ばね、亀ばねについてももう少し調査をしてほしい。また、各はねに名前がついていることは大切なことと考える。名前を付けるということは個別に認識されており、愛着を持たれていた証拠だと思われる。拠点整備において設計を具体化していくにあたっては、そうしたはねの名前の由来を踏まえたバリエーションを意識してほしい。周辺の階段や船着き場なども含めたはねの周り全体で、7 つ

のはねの個性を表現できると良い。

事) 調査については、施工を進める中で昔の石積みなどが出てきた段階で八代市の文化財保護部局とも調整を行いながら、適宜調査を行っていく。

拠点整備については、今後の埋蔵文化財調査において判明した特徴を活かすことや、地元のみならずから愛着を持っていただけるような整備に結び付けていきたいと考えている。

委) 景観についても重要であるが、球磨川にとっては近年の水害状況も考えると防災が最も留意すべき事項である。歴史的なことも踏まえつつ、防災を一番に考えて検討をしてほしい。

事) 頂いたご意見を踏まえ、着実に堤防補強を進めていく。

委) P21 のモニタリングにより見られる捨石部分の植生は何か。また、どれくらい冠水する環境か。

事) ヤナギなどが戻ってきている。高水敷の高さでも年に数回冠水する。捨石部分はさらに冠水する頻度が高いと思われる。

委) 石の上に生える植生は管理が難しい。冠水する頻度が多いほど外来植生は生えないため、このような質問をした次第である。

委) 7月4日に確認したところ、堤防に亀裂が生じていた。この事業は本当に堤防の補強になるのか。また、文化財の保護につながる工事なのか。

事) 治水の観点で、断面拡幅を行うことで堤体の下部を補強する工事になっている。この補強と合わせて、萩原堤の歴史的背景や景観面と両立する整備を検討している。また、球磨川流域では、流域治水の考え方で洪水位を下げる取組を実施中である。

B) 拠点整備について

事) 拠点整備として、本日提示した「スロープ・階段」「遊歩道」「サイン」の基本方針のもと、次回以降具体化していきたいと考えている。

<サインについて>

委) 解説板や観光案内等のサインについては、球磨川だけでなく、八代市と連携して、まち全体で一緒に巡るような内容やデザインを検討してほしい。

委) 八代市としては共通のデザイン等の指針は無い。今後話が進むなかで協働しながら、周遊性を高めたり、来訪者に魅力的な八代市をアピールするデザインを、今後一緒に考えていきたい。

委) 学生時代に、日奈久温泉街の地域の資産となりえる場所や路地を抽出し、統一したサイン、案内板の作成に関わった経験がある。萩原堤防周辺だけでなくまち全体として考えることや、この拠点においてこういった過ごし方をしてもらいたいかを想定したうえでサインの内容を精査していく必要があると考える。

委) 太田郷小学校では3年生が授業の一環で地域を巡る機会がある。その際に、歴史的

な施設の解説サインがあれば、子どもたちが学ぶ機会が生まれると感じた。

＜石はね周辺について＞

- 委) はねがある川は珍しいものなのか。カーブの部分ではねが設置されている事例や、そういった川のまちづくりの事例があれば共有してほしい。
- 事) すべての事例を把握しているわけではないが、複数のはねがあり、かつオリジナルが残っている点で全国的にも貴重である。
- 委) 生まれ育ちが球磨川沿いで、萩原敷石を泳いで渡れないと一人前でないという言い伝えもあった。水に親しまないと川をきれいにしないということにつながると考える。防災と逆行するかもしれないが、せっかくオリジナルが残されているはねの一部に、川の中に突き出た場所を造って、はねの役目を現場で感じられるとよりよい。また、球磨川によって八代市が発展した歴史もあるため、VRなどで当時の施工技術などの伝承につなげられないかと考える。
- 事) 今後の文化財調査結果を踏まえ、位置や形状などを極力再現できるよう、被覆やかさ上げといった整備に反映したいと考える。
- 委) 川の中に石はねがあったことを次の世代に知らせたいという思いがある。石積みの石がどこから持ってきたのか等の紹介もあるとよい。
- 事) 文化財調査を行い、形や石材、積み方等が明らかになった段階で、知ってもらえる取組を行っていく。

③その他報告事項について

- 事) 水生生物ワーキンググループの報告を行った。
- 事) 令和 2 年 7 月豪雨の概要と、球磨川水系緊急治水対策プロジェクトの進捗状況の報告を行った。
- 事) 本委員会を開催するにあたり、令和 2 年 7 月豪雨の被害が大きかったため、最初に水害についての報告を行うか、議論があった。その結果、令和 2 年 7 月の水害を踏まえ安全・安心を大前提としながらも、その次の前向きな議論をしようと考え、今回の順番にて説明を行った。
八代は球磨川とともに発展してきたが、石はねは知っているようで知らない方も多いうのである。皆さんが知っている球磨川と埋もれてしまっている石はねを、資源としてまちの発展やにぎわいに活用していただいたうえで、皆さんとともにどのように整備していくか前向きな議論を行っていきたい。
- 委) 過去の水害時の浸水高さの表示を行っている取組は素晴らしいと感じる。水害を忘れないような取組も引き続きお願いしたい。
- 事) 今後、地元の方々と協力しながら、このような表示をさらに展開していきたい。

以上